

岩手県  
知事 達 増 拓 也 様

# 要 望 書



冬期の国道343号笹ノ田峠

【岩手県陸前高田市・一関市】

## 国道 343 号<sup>しんささの だ</sup>新笹ノ田トンネルの早期事業化について

国道 343 号は、岩手県内陸部の生産拠点と沿岸部の港湾とを結ぶ物流ルートであるとともに、観光拠点を結ぶ広域観光ルートとして重要な路線であります。

令和 3 年度には、国の復興道路に指定されている三陸沿岸道路が全線開通し、沿岸と内陸を結ぶ幹線道路の整備が今後ますます重要となります。国の復興支援道路に指定された横軸の路線としては、岩手県中央部では宮古盛岡<sup>みやこもりおか</sup>横断道路が、県中部においては東北横断自動車道<sup>かまいしあきた</sup>釜石秋田線が高規格道路として整備されましたが、岩手県南部においても、横軸となる道路ネットワークの構築を進めていく必要があります。

陸前高田市と一関市の境にある<sup>ささの だ</sup>笹ノ田峠は、幅員狭小や急峻な山地を越えなければならない地理的条件から交通の難所となっており、積雪寒冷地という気象条件により、特にも冬期間は、交通に大きく支障をきたしており、東日本大震災時には、凍結等により救援車両が通行できない状況でありました。

また、近年は、国内各地においても、台風等による大雨や水害などが頻発しており、その被害は以前にも増して甚大になっており、「岩手県地域防災計画」の中で陸前高田市と一関市が市町村相互協力として位置付けられていることから、非常時においても輸送路・避難路として機能する道路網の確保は急務であり、新トンネルの整備による安全・安心な交通の確保と所要時間の短縮が求められています。

新トンネルの実現に向けて、平成 26 年度に沿線自治体において 9 万人を超える署名が集まったところです。こうしたことを受け、岩手県において「国道 343 号<sup>ささの だ</sup>笹ノ田地区技術課題等検討協議会」が設置され、<sup>ささの だ</sup>笹ノ田地区の現道の課題について、対策の必要性、効果及び技術的課題等の検討が進められており、今後の展開について、沿線自治体、住民ともに大いに期待しているところであります。

つきましては、災害発生時における広域的かつ機動的な危機管理の確保を踏まえた対策と併せ、国道 343 号沿線地域において、長年の悲願であり、今後急速に

進む人口減少のなかでの地域間交流・連携強化のためにも、このような状況をご理解いただき、「新笹ノ田<sup>しんささのた</sup>トンネル」の早期事業化について特段のご配慮をいただきますようお願いいたします。

## 国土強靱化の中期計画策定及び必要な予算・財源の別枠での確保 について

近年、災害が激甚化・頻発化する中で、災害時には命を守る道として道路は非常に重要な役割を担っており、災害発生を未然に防止することが急務となっております。

このため、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の最終年度となる令和7年度においても、資材価格高騰の影響も考慮し、これまで以上の規模で予算を確保し、計画的・継続的に事業を推進するよう要望いたします。

また、令和6年能登半島地震、豪雨、豪雪などの災害状況も踏まえた上で、切れ目無く、継続的・安定的に国土強靱化の取り組みを進めるため、国土強靱化実施中期計画を速やかに策定し、国土強靱化に必要な予算・財源を別枠で確保するよう要望いたします。

令和6年9月25日

陸前高田市長 佐々木 拓

一関市長 佐藤 善仁